

郷音

No. 83

〒590-0959

日本キリスト教団 堺川尻教会

堺市堺区大町西三丁一、十三

☎072-2331-3531

「さて、過越祭と除酵祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、なんとか計略を用いてイエスを捕らえて殺そうと考えていた。彼らは、『民衆が騒ぎ出すといけないから、祭りの間はやめておこう』と言っていた。」

(マルコ一四章一〜二節)

冒頭の聖句の「過越祭」は、出エジプトの出来事に由来する祭りです。かつてエジプトで奴隷とされていた旧約イスラエルの民が、神の導きによつていよいよエジプトから逃げ出すことになった時、神はモーセに命じられて、イスラエルの人々が皆小羊を屠つて、その血を家の門に塗るようになされた。夜になり、神のみ使いがやつて来て、小羊の血が塗つてあるイスラエルの人々の家は過ぎ越し、塗られていないエジプト人の家の子を撃ちます。その混乱に乗じてイスラエルはエジプトを脱出する

ことができたのです。これを記念する祭りが「過越祭」です。

祭司は一週間行われましたが、主を殺す計略を立てていた祭司長と律法学者は「民衆が騒ぎ出すといけないから、祭りの間はやめておこう」と言いました。祭りには各地から巡礼者が集まり、エルサ

主の御旨だけが堅く立つ

マルコによる福音書一四章一〜二節



塚本一正牧師

レムの都はこつた返しと言います。そんな時にイエスを殺害して民衆の間に騒乱でも起こしたら大変です。それで彼らは祭りの間はやめておこうと言ったのです。このち、彼らは主を殺します。願ひ通りにイエスを捕らえて殺すことに成功します。しかしそれは、彼らの計略通りには進みませんでした。彼らの思いに反して、主は過越祭の真最中に十字架につかれて死なれるのです。

なぜでしょうか。それは、それが神の御業だからです。神が主イエスを、過越祭の真最中に十字架にかけて撃たれるのです。神は主イエスを、新しい過ぎ越しの小羊として屠られます。それは主イエスの血によつて、今度はイスラエルだけにでなく、全ての人の罪が贖われて、全ての人が救われるためでした。

この神の御心によつて、主イエスは過越祭の真最中に、十字架に

つけられて死なれるのです。祭司長や律法学者の計略によつて殺されてしまうではありません。一見、彼らの悪しき計略によつて主は殺されてしまったように見えますが、実際は神の救いの御心によつて、主は十字架にかかつて死なれたのです。

箴言一九章二節にこうあります。「人の心には多くの計画がある。しかし、ただ主の御旨だけが堅く立つ」(口語訳)。祭司長や律法学

者は神の子主イエスを殺す悪しき計画を立てました。しかし実際には、神の救いの御旨によつて主は十字架にかけられました。その際、神は祭司長たちの計画をお用いになったのです。一見、主が人の悪しき計画によつて殺されてしまったように見えるのはこのためです。神は、人の悪しき計画さえも用いられて、ご自分のよき御旨を立てられるのです。

今も人は多くの計画を立てます。悪しき計画も立てます。それが成功して、人の悪が勝利してしまつたように見えることもあります。しかし、望みを失つてはなりません。本当に堅く立つのは、主の御旨だけです。主なる神は、人の悪しき計画さえも用いて、ご自分のよき御旨を必ず成し遂げてくださるのです。主イエス・キリストの十字架の出来事はそのことの保証でもあります。

私たちはこの神を信じて生きるのです。目に見える人の世の状況がどのようであっても、神を信じて、希望と愛を失わずに歩むのです。